

が ん の 生 存 率

5年相対生存率

5年相対生存率の集計は、2017年の集計とは別に、本標準集計を行った時点で届出から5年間経過した罹患症例を対象として行った。

今回の5年相対生存率の算定の対象は、2012年1月1日から同年12月31日までに診断され、

届出された症例である。

部位別に見ると、皮膚、前立腺、甲状腺、乳房、喉頭、子宮体部においては比較的高く、膵臓、胆のう・胆管、肝および肝内胆管、肺、脳・中枢神経系、白血病においては比較的低い。(図16)

図16 部位別5年相対生存率(%) (表12から作成)

